

## 7 教師の指示が通らないGさん

Gさんは、話を聞くことが苦手で、授業中クラス全体に指示したことがうまく伝わりません。1対1で話したことも、聞いているように見えても、内容を理解できていないこともあります。どう配慮していけば良いでしょうか。

### どうしてそうなるの？(考えられること)

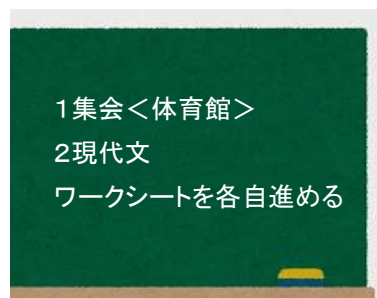
- ◎聴覚的な記憶が苦手なため
- ◎口頭での指示や説明を理解することが苦手で、聞いた内容を整理したり、イメージしたりすることが難しいため
- ◎他のことに注意が向いていると、指示を聞き逃し、周囲の状況を把握できず、自分が行うべきことがわからなくなるため

### 合理的配慮・具体的な支援(例)

#### 1 教師の指示を簡潔にしたり、視覚的に示したりする

<①-1-1><①-2-1>

- 指示は口頭で伝えるだけでなく、黒板に書くなど視覚的にもわかりやすく示す。
- 具体的に、短い言葉で指示をしたり、大切なことは繰り返して伝えたりする。
- メモを活用する。はじめは、教師が指示した内容をメモして渡し、徐々に生徒がメモをとる練習をしていく。

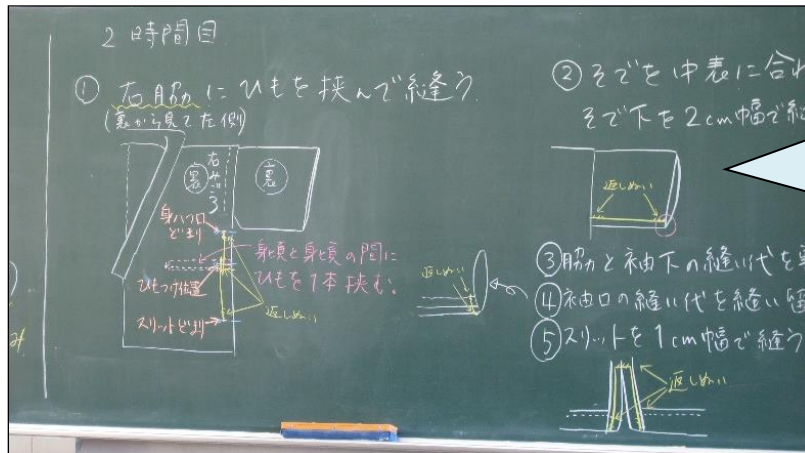


板書やメモを見て、指示を自分で確認し、行動できるようになりました。

授業の途中でも、今やっていることを視覚的に確認しながら学習に取り組むことができます。

## 2 言葉や指示内容の理解ができるようにする <①-2-2>

- イラストを用いたりモデルを示したりして、指示内容をわかりやすく示す。
- 理解できる言葉に言い換えて説明をする。
- 全体に指示した後に、内容を理解できているか個別に確認する。



指示を板書し、イラストを添えることで、自分で確認しながら作業を進めることができました。

## 3 教師の話に注意が向けられるように環境を調整する <①-2-1><③-2>

- 教師が個別に声かけができ、周囲が気にならない座席配置にする。
- 教師が話をするときには、注目を促してから話をする。
- 周囲の刺激に影響を受けないように、黒板周りの掲示物を整理し、教室内も整理整頓する。



黒板の周りを整理したり、ロッカーを目隠ししたりして、学習に集中できるようにします。



話を聞くときは、学級全体で静かな環境をつくり、教師の指示を聞くようにすることが大切です。



話を始める前に個別に声をかけたり、合図をしたりしたことで教師の話に注意を向けて聞けるようになり、聞き逃しが少なくなりました。

## 8 集中が継続しないHさん

Hさんは、授業中、落ち着きがなく、立ち歩いたり他の生徒に話しかけたりするなどの言動が見られます。また、集中が続かず、眠ってしまうこともあります。どう配慮していけば良いでしょうか。

### どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎授業に関係ないことが視界に入ったときに興味移ってしまい、行動を我慢できないため
- ◎指示されたことや周りの状況が理解できず、何をしたらよいのかわからないため
- ◎授業内容が理解できずに飽きてしまうため

### 合理的配慮・具体的な支援(例)

#### 1 集中できる環境を整える <①-2-1><③-2>

- 座席は、他の生徒が気にならない一番前の座席などにする。
- 黒板や教室前面の掲示物の整理をし、ロッカーや棚の中が見えないようにカーテンなどで目隠しをする。
- 静かで過ごしやすい温度の教室環境にする。
- 窓際の直射日光を避け、まぶしさを軽減できるようにする。

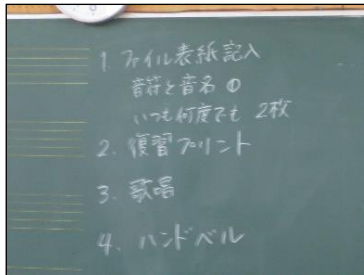


黒板の周りを整理したりロッカーにカーテンを付けたりすることで、授業に集中しやすくなりました。

## 2 見通しをもって授業に取り組めるようにする

〈①-1-2〉×〈①-2-1〉×〈①-2-2〉×〈①-2-3〉

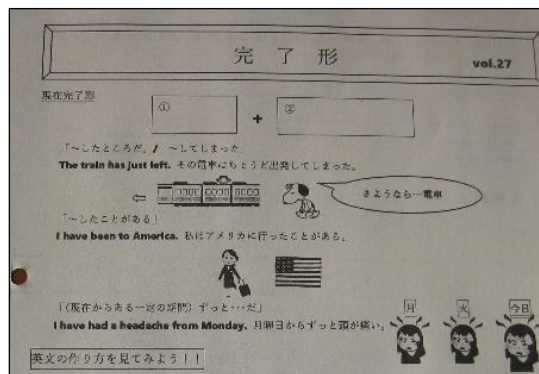
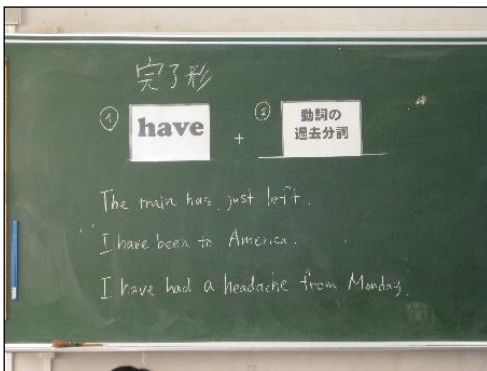
- 活動の見通しがもてるように学習の流れを提示し、今学習している内容を理解したり、途中からでも学習に戻ったりできるようにする。
- 終了時刻を示して時間の見通しがもてるようにする。
- 机間指導などで、今学習しているところの確認など個別に声かけをする。



学習の流れや、終わりの時刻を示すことで、学習内容を理解して、見通しをもって取り組めるようになりました。

## 3 興味や関心をもって取り組める授業を工夫する 〈①-2-1〉×〈①-2-2〉

- わかりやすい板書を工夫する。
- 写真、イラストなど視覚情報を活用する。
- 興味のあることや得意なことを取り入れる。
- 短時間で区切って多様な活動を展開したり、学習活動の順序を一定にして次の活動が予測できるようにしたりする。
- 板書や課題など学習量を調整し、達成感を感じながら取り組めるようにする。



ワークシートを活用した授業を行ったことで、板書のどこを書けば良いかわかりやすくなりました。



より生徒にわかりやすくするために、グラフや図、写真などの視覚的な資料も活用します。

## 9 授業に参加できないIさん

Iさんは、部活動に意欲的に取り組み、休み時間はクラスの友達とも楽しそうに話していますが、授業に参加することができません。授業に出なかったり、授業に出ても教科書やノートを開こうとしなかったりする様子が見られます。教師が注意をすると返事はするのですが、行動に変化が見られません。どう配慮していけば良いでしょうか。

### どうしてそうなるの？(考えられること)



- ◎授業内容が理解できず、あきらめてしまっているため
- ◎学習の進め方を理解していなくて、どうしていいかわからないため
- ◎苦手なこと、不得意なことを伝えることができないため

#### 1 学習の内容や量を検討し、達成可能な目標を設定する

<①-1-2 >

- わかりやすい具体的な指示をしたり、できそうな学習内容を提示したりする。
- 声をかけやすい座席にして、必要に応じてヒントを与えたり、適宜ほめたりする。



合理的配慮・具体的な支援(例)

#### <具体的な指示>

(例)「全体を読んで、感想を書きましょう。」

→「～についてわかったこと、疑問に思ったことを書きましょう。」

(例)「～の問題を解きましょう。」

→「□ページの◇を使って、～の問題を解きましょう。」

選択肢を提示して、「自分はこれならできる」「ここまではやる」と本人が選択できるようにすることも大切です。

必要に応じて個別指導を行い、学習理解を深め、意欲を高めることも検討します。

課題を達成する経験を積むことで、学習への意欲が高まり、授業に参加することが増えてきました。

個別だけでなく学級全体にも具体的に指示をすることで、他の生徒も学習に参加しやすくなります。

また、授業の始めに、既習事項を確認したり、○×クイズをしたりするなど、誰もが参加できる学習内容を工夫することも検討します。

## 2 学習の進め方をわかりやすく伝える <①-1-1>

○教科ごとの学習のやり方や状況に応じた学習の進め方を具体的に提示する。

教科担任制のため、教科ごとの進め方の違いをわかりやすくする。

(例)

- ・現代文・・・板書をノートに書く
- ・古文・・・ワークシートに記入  
予習：意味調べ
- ・英語・・・板書をノートに書く  
予習：意味調べ
- ・数学・・・板書をノートに書く  
練習問題はプリント配付

学習の進め方を少しずつ理解し、授業に参加できるようになってきました。



(例) わからないところ

- ➡ピンクの付箋を貼る
- ➡質問タイムまたは、授業後に質問する

(例) 授業のポイント

- ➡マーカーで印付け

## 3 自分の得意なこと、不得意なことを考えて伝えたり、対応方法を相談したりできる機会を設定する <①-1-1><①-2-1>

○個別に相談する機会を設け、自分の行動を振り返って得意なこと、不得意なことを理解し、対応方法を考えることができるようにする。

### 授業振り返りシート (例)

□にチェック✓してみましよう

|             | 得意 | ふつう | 不得意 |
|-------------|----|-----|-----|
| ① 先生の話聞く    | □  | □   | □   |
| ② 文章を読む     | □  | □   | □   |
| ③ 板書をノートに書く | □  | □   | □   |
| ④ 発表する      | □  | □   | □   |
| ・           |    |     |     |
| ・           |    |     |     |



|            |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| 得意なこと      | 話を聞く、発表する                           |
| 不得意なこと     | 板書をノートに書く                           |
| (自分でできる工夫) | 行間の広いノートを用意する。                      |
| (配慮事項)     | 手元に板書メモを置いて書く。○○教科では板書の量により板書撮影の許可。 |

定期的にチェックシートや振り返りシートを活用しながら、自分の「不得意なこと」を理解できるようにします。あわせて「得意なこと」も理解して活用し、自信をもてるようにします。

「自分でできる工夫」や「配慮事項」を考えます。

定期的に相談する機会を設けることで、得意なこと、不得意なことを自分から伝え、一緒に対応方法を考えられるようになりました。